

インマヌエル中目黒キリスト教会

2013年6月9日聖日礼拝

使徒の働き連講⑤

「いろいろな国ことばで 神のわざを」

使徒の働き 2章 1～13節

竿代照夫 牧師



聖書朗読

新約聖書

使徒の働き 2章1 – 13節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

第二版の聖書はp209~/ 第三版の聖書はp228~

- 1 五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。
- 2 すると突然、天から、激しい風が吹いて来るような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。
- 3 また、炎のような分かれた舌が現れて、ひとりひとりの上にとどまった。
- 4 すると、みなが聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話した。した。

- 5 さて、エルサレムには、敬虔なユダヤ人たちが、天下のあらゆる国から来て住んでいたが、
- 6 この物音が起こると、大ぜいの人々が集まって来た。彼らは、それぞれ自分の国のことばで弟子たちが話すのを聞いて、驚きあきれてしまった。
- 7 彼らは驚き怪しんで言った。
「どうでしょう。いま話しているこの人たちは、みなガリラヤの人ではありませんか。」

- 8 それなのに、私たちがめいめいの国の国語で話すのを聞くとは、いったいどうしたことでしょう。
- 9 私たちは、パルテヤ人、メジヤ人、エラム人、またメソポタミヤ、ユダヤ、カパドキヤ、ポントとアジヤ、
- 10 フルギヤとパンフリヤ、エジプトとクレネに近いリビヤ地方などに住む者たち、また滞在中のローマ人たちで、

11 ユダヤ人もいれば改宗者もいる。またクレテ人とアラビヤ人なのに、あの人たちが、私たちのいろいろな国ことばで神の大きなみわざを語るのを聞こうとは。」

12 人々はみな、驚き惑って、互いに「いったいこれはどうしたことか」と言った。

13 しかし、ほかに「彼らは甘いぶどう酒に酔っているのだ」と言ってあざける者たちもいた。

説教

使徒の働き連講⑤

「いろいろな国ことばで
神のわざを」



主テキスト

「あの人たちが、私たちのいろいろな
国ことばで神の大きなみわざを語るの
を聞こうとは」

(使徒 2 : 1 1)

A. 五旬節（ペンテコステ）の到来（1節）

1. 五旬節とは

- ・ 過越祭（早春）の最終日から7週間後（50日後）
- ・ 大麦の収穫を祝う
- ・ 出エジプト時の律法賦与を記念する
- ・ 三大祭りの一つ

2. 特別な五旬節（A D 3 0 年）

- 1 0 日間の待望祈禱会の答えとして
- 聖霊が注がれた

B. ペンテコステの出来事（2 - 4節）

1. 風のような音

- ・ 聖霊到来の前触れ
- ・ 生かす息である聖霊の象徴

2. 舌のような炎

- ・ 体（教会）の肢に与えられる賜物
- ・ 罪を焼き尽くす火である聖霊の象徴

3. 聖霊の満たし

- ・ 既に存在し、働いておられる聖霊が
- ・ 圧倒的な力と恵みをもって魂に満ちること

4. 他国の言葉

- ・ 今まで習ったことのない言語で
- ・ 神の福音を分り易く語る

C. 世界宣教の始まり（5 - 13 節）

1. 福音を聞いた人々

- ・エルサレムの住民
- ・各地からの巡礼者（ユダヤ人と改宗者）
（地図①を参照）

①パルテヤ、メジヤ、メソポタミヤ：チグリス、ユーフラテス川流域

②カパドキヤ、ポント、アジヤ、フルギヤ、パンフリヤ：シリアの影響下

③エジプト、リビヤ：北アフリカ諸国

- ④ローマ：ローマ帝国の首都
- ⑤クレテ：地中海世界の鍵
- ⑥アラビヤ：ナバティヤ帝国

ペンテコステの巡礼者



- (参考) デイアスポラの歴史と状況
(地図②を参照)
- ①紀元前 8 世紀：アッシリヤによる北イスラエルの滅亡捕囚
- ② 6 世紀：バビロンによる南ユダ国の滅亡とそれに続く捕囚
- ③ 3 世紀：プトレマイオス王朝のエジプト支配に伴う人口移動
- ④ 2 世紀：セレウコス王朝のシリア支配に伴う人口移動
- ⑤ 1 世紀：ローマによる地中海世界統一に伴う人口移動

ペンテコステの巡礼者



2. 三種類の反応

- ① 神を賛美→離散教会の基礎
- ② 悔い改めと信仰→エルサレム教会の基礎
- ③ 嘲笑

3. 多言語での宣教の意義

- ・ バベルの呪いの逆転
- ・ 世界宣教の地ならし

おわりに

私たちもあらゆる機会に
「神の大いなるみ業」
を伝えよう